令和７年度 横浜市民スポーツ意識調査報告書 概要版

Ⅰ 調査概要

1 目的　　国の「スポーツ基本計画」を参考に策定した「横浜市スポーツ推進計画」における「する」「みる」「ささえる」スポーツの推進に向けて、運動・スポーツの実施率等、横浜市における現状を把握するため、市民を対象としたスポーツ意識調査を実施した。また、その結果を活かし、本市スポーツ施策における各種事業の現状と課題について考察し、課題解決に向けた新たな政策立案等につなげていく。

2 対象者　　(1) 横浜市民スポーツ意識調査①
横浜市に居住する満 18 歳以上の調査機関登録者男女 1,997 人
(2) 横浜市民スポーツ意識調査②（障害のある方を対象とした調査）
次のいずれかを満たす調査機関登録者合わせて 208 人
ア 横浜市に居住する満 18 歳以上の障害のある方本人
イ 横浜市に居住する満 18 歳以上の障害のある方と同居している家族（代理回答）
※障害のある方が複数人いる場合は、最も年齢の高い方を対象とする

3 抽出方法　　(1) 住民基本台帳登録者（令和７年３月末現在）の性別・年代・居住区の構成比率を基に市全体の縮図となるようサンプル数を割付し、調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出
(2) 調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出

4 調査方法 インターネットによるアンケート調査

5 調査期間 令和７年９月 16 日（火）～10 月７日（火）

6 回収状況　(1) 有効回答数：2,217 件（ウェイトバック集計後 1,997 件）　(2) 有効回答数：208 件

※(1) は、各区の人口構成比と調査設計のサンプルの割当て件数（1,997）でウェイトバック集計を行った。
※表中に複数回答の記載がある設問は、比率の合計が 100%にならないことがある。
※回答比率は、全て「n」を基準とした百分率で表し、小数第２位を四捨五入している。複数項目を合計した数値についてはローデータの合計値を四捨五入しており、個別の数値の合計値とは一致しない場合がある。

【第３期横浜市スポーツ推進計画における指標（抜粋）】

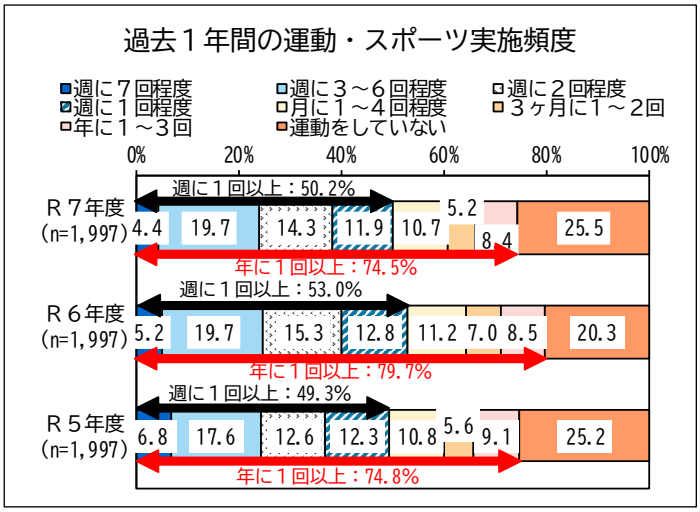
活動内容	目標値（令和８年度）	令和７年度（今回）	令和６年度（前回）
成人の週に１回以上のスポーツ実施率	70%以上	50.2%	53.0%
成人の１年に一度以上のスポーツ実施率	100%に近づける	74.5%	79.7%
スポーツが好きな人の割合	75%以上	62.8%	66.3%
働く世代・子育て世代の週１回以上のスポーツ実施率	60%以上	42.6%	48.4%
障害者の週１回以上のスポーツ実施率	65%以上	40.9%	40.0%
障害者の１年に一度以上のスポーツ実施率	80%以上	57.7%	61.5%
スポーツボランティア参加率	10%以上	8.2%	8.3%
市内でのスポーツイベント直接観戦率	30%以上	26.6%	35.9%
横浜市はスポーツが盛んであると思う市民の割合	70%以上	54.0%	58.0%

Ⅱ 結果概要

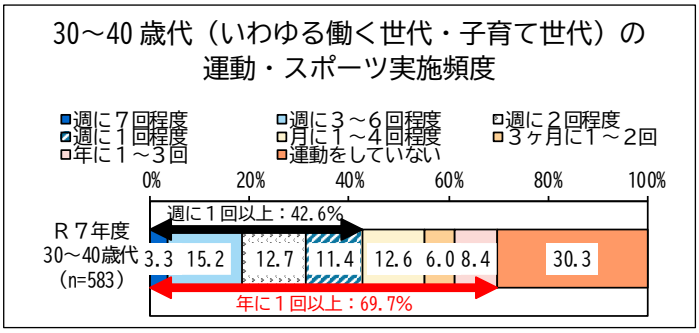
「する」スポーツ

●「週に１回以上」の運動・スポーツ実施率は 50.2%
令和６年度の 53.0%から 2.8 ポイント減少、横浜市スポーツ推進計画の目標（以下、市の目標）（70%以上）には 19.8 ポイント及ばなかった。

●「１年に一度以上」の運動・スポーツ実施率は 74.5%
令和６年度の 79.7%から 5.2 ポイント減少、市の目標（100%に近づける）には 25.5 ポイント及ばなかった。

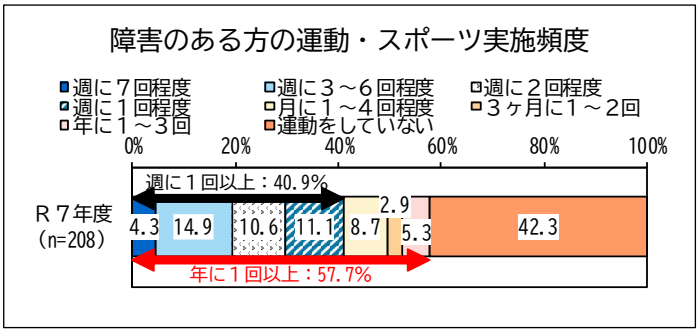


●30～40 代（いわゆる働く世代・子育て世代）の「週に１回以上」のスポーツ実施率は 42.6%
令和６年度の 48.4%から 5.8 ポイント減少、市の目標（60%以上）には 17.4 ポイント及ばなかった。



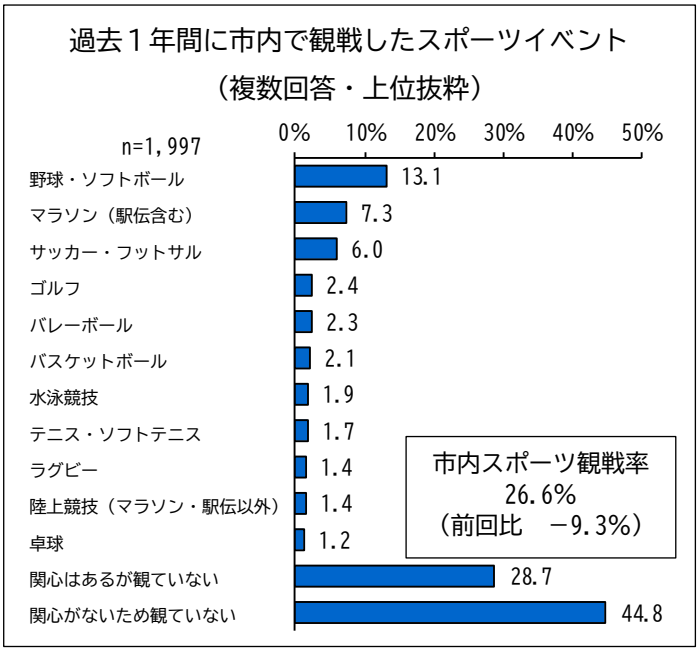
●障害のある方の「週に１回以上」のスポーツ実施率は 40.9%
令和６年度の 40.0%から 0.9 ポイント増、市の目標（65%以上）には 24.1 ポイント及ばなかった。

●障害のある方の「1 年に一度以上」の運動・スポーツ実施率は 57.7%
令和６年度の 61.5%から 3.8 ポイント減少、市の目標（80%以上）には 22.3 ポイント及ばなかった。



「みる」スポーツ

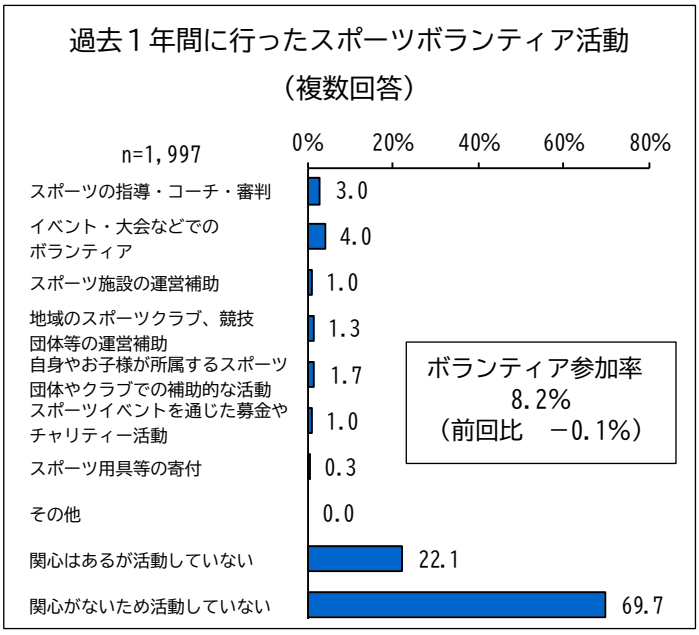
●過去１年間の市内での観戦率は 26.6%
令和６年度の 35.9%から 9.3 ポイント減少、市の目標（30%以上）には 3.4 ポイント及ばなかった。
なお、種目については、「野球・ソフトボール」が 13.1%で１位となったが、令和６年度の 19.9%から減少した。次いで「マラソン(駅伝を含む)」が 7.3%、サッカー・フットサルが 6.0%という結果だった。



「ささえる」スポーツ

●過去１年間に行ったスポーツボランティア活動への参加率は 8.2%

令和６年度の 8.3%から 0.1 ポイント減少、市の目標（10%以上）には 1.8 ポイント及ばなかった。

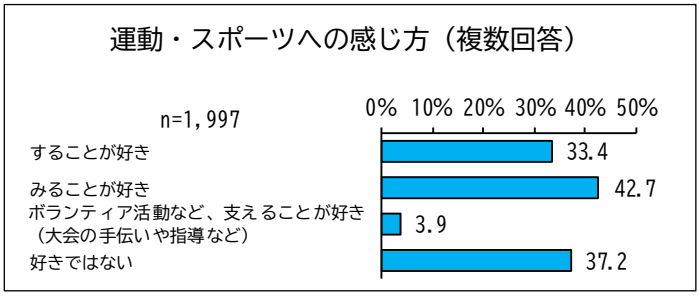


横浜市のスポーツについて

●スポーツが好きな人の割合は 62.8%

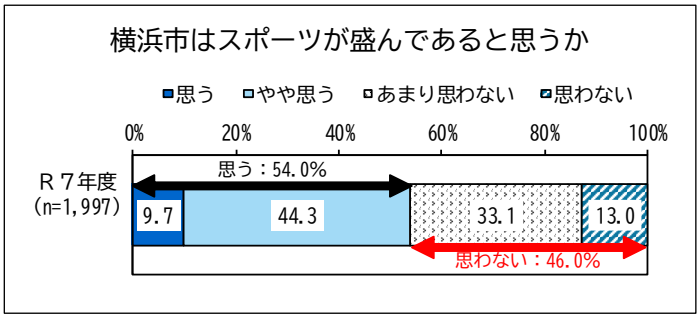
スポーツへの感じ方は、「みることが好き」（42.7%）が最も高く、次いで「することが好き」（33.4%）となった。

「する」「みる」「ささえる」のいずれかを好きと回答した割合は 62.8%で、令和６年度の 66.3%より 3.5 ポイント減少、市の目標（75%以上）には 12.2 ポイント及ばなかった。



●横浜市はスポーツが盛んであると思う人の割合は 54.0%

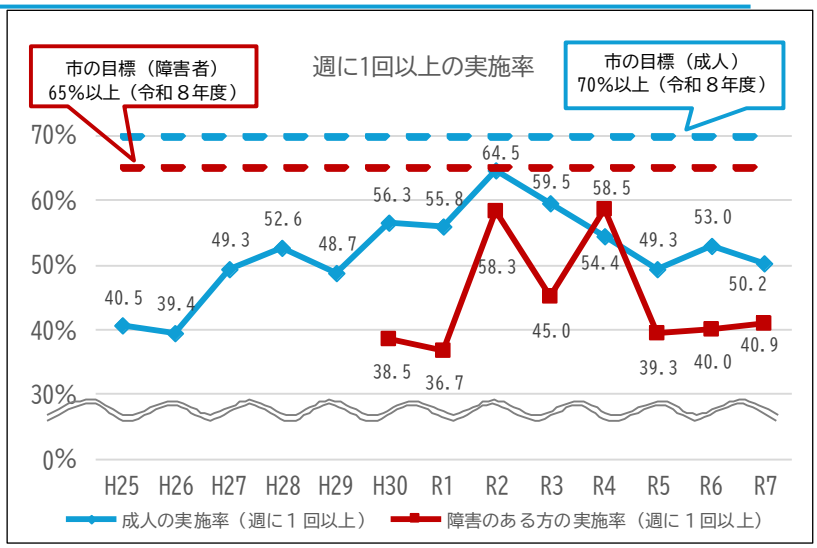
横浜市はスポーツが盛んであると思う（「思う」「やや思う」計）の割合は 54.0%となり、令和６年度の 58.0%から 4.0 ポイント減少、市の目標（70%以上）には 16.0 ポイント及ばなかった。



Ⅲ　スポーツ実施率の変化

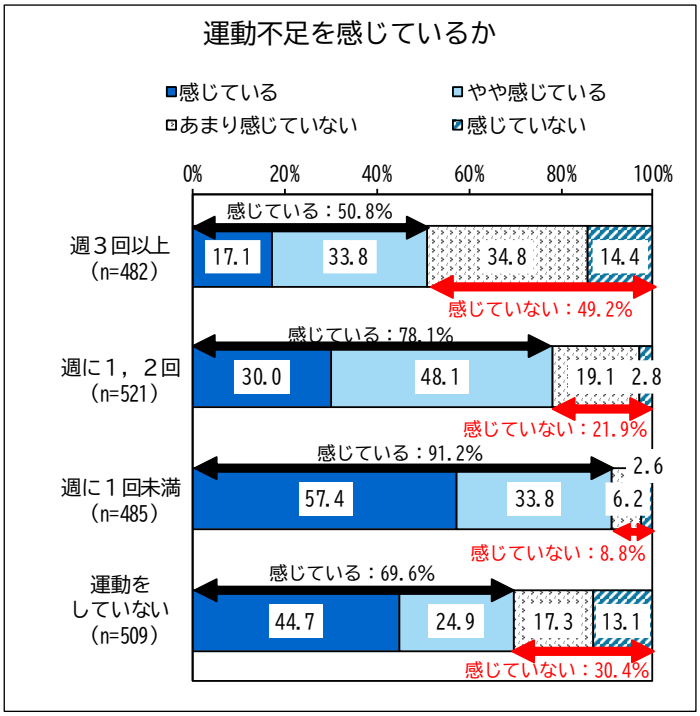
成人の週に１回以上のスポーツ実施率は、平成 26 年度の 39.4%から令和２年度にかけて増加傾向にある。令和３年度から令和５年度にかけては減少したが、令和６年度には再び増加に転じ、令和７年度には減少に転じた。

障害のある方については、平成 30 年度から調査を始めたが、令和５年度までは数値の上下が大きく、何らかの傾向はみられなかったが、令和５年度以降４割程度で推移している。



Ⅳ　運動不足に関する意識

運動・スポーツの実施が週１回未満の人は運動不足と感じていない割合（「あまり感じていない」と「感じていない」を合わせた割合）が 8.8%。一方で、運動をしていない人の運動不足と感じていない割合は 30.4%。



Ⅴ　まとめ

令和７年度は、「障害者の週１回以上のスポーツ実施率」以外の指標において令和６年度を下回った。

特に、市内でのスポーツイベント直接観戦率は 9.3 ポイントと大きく減少した。観戦した種目は野球・ソフトボールが最も多く、次いでマラソン（駅伝を含む）、サッカー・フットサルと続いており、観戦した種目の上位は令和６年度と同様となっている。

「成人の週に１回以上のスポーツ実施率」は 2.8 ポイント減少しているが、一方で「運動不足と感じている」層が 5.3 ポイント減少しており、いずれも令和５年度とほぼ同様の結果となっている。「いわゆる働く世代・子育て世代の週に１回以上のスポーツ実施率」は 5.8 ポイントと大きく減少し、全体と比較して低い傾向が続いている。

運動習慣と運動不足に関する意識の関係を見ると、週３回以上運動・スポーツを実施していても、約半数が運動不足を感じている。一方で運動をしていない人の約３割は運動不足を感じていないことから、運動習慣があっても運動不足と感じている理由や、運動をしていなくても運動不足を感じていない背景等を丁寧に分析する必要がある。また今後は、スポーツの参加機会や楽しめる環境の充実など、市民の実感を重視した施策を検討していくことが重要となる。

Ⅵ 報告書について

報告書（PDF）は、横浜市ホームページにて公開しています。報告書では、単純集計のほか、性別、年代別、性・年代別、居住区別のクロス集計結果等も掲載しています。詳細は報告書を御参照ください。

※訂正等があった場合についても、ホームページに掲載します。

【令和７年度横浜市民スポーツ意識調査報告書 概要版】
令和８年３月
編集・発行 横浜市にぎわいスポーツ文化局スポーツ振興課
045-671-3583
横浜市中区本町 6 丁目 50 番地の 10
https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/sports/shinko/shinko/ishiki.html